（2022.12）
（情報公開文章用）

作成日　2025 年 4 月 3 日
第 2 版作成

2010 年 1 月 1 日～2023 年 6 月 30 日の間に乳腺甲状腺外科において乳がんの治療を受けられた方及びご家族の方へ

―「乳がんにおける亜鉛制御トランスポーターに関する病理学的検討」へのご協力のお願い―

本研究の内容は、研究に参加される方の権利を守るため、研究を実施することの適否について川崎医科大学・同附属病院倫理委員会にて審査され、既に審議を受け、承認を得ています。また、学長と病院長の許可を得ています。

研究責任者　川崎医科大学・病理学・准教授　塩見　達志
研究分担者　川崎医科大学・病理学・准教授・秋山 隆
川崎医科大学・病理学・講師・西村 広健
川崎医科大学・病理学・大学院生・長﨑 裕加里
川崎医科大学・病理学・講師・佐貫 史明
川崎医科大学附属病院・病院病理部・非常勤医師・三上 友香
川崎医科大学・乳腺甲状腺外科学・准教授・野村 長久
川崎医科大学・乳腺甲状腺外科学・教授・平 成人
川崎医科大学・学長付・特任教授・森谷　卓也

１．研究の概要

亜鉛は人体において重要な微量元素であり、体内での亜鉛の欠乏や過剰は様々な疾患の原因となります。細胞内の亜鉛の濃度は 2 種類の亜鉛制御トランスポーター（細胞外の亜鉛を細胞内に取り込むなどの働きをする物質）と、亜鉛結合タンパクにより調節されています。この亜鉛制御トランスポーターは様々な種類のがんにおいて、がんの形成や進行、転移などと関連することが報告されてきています。近年、乳がんにおいても、亜鉛制御トランスポーターの一部（ZIP6・ZIP7・ZIP10 など）が乳がんの進行や転移に関与することが分かってきており、乳がんと亜鉛制御トランスポーターとの関連を調べることで、今後、乳がんの新しい治療法の発見および発展につながることが期待されています。この研究では、ZIP6 などの亜鉛制御トランスポーターが、どのような種類の乳がんで多くみられるのかという事や、乳がんの進行や転移にどのように関連しているのかという事などを、病理標本を使って調べる予定です。

２．研究の方法

1）研究対象者

2010 年 1 月 1 日～2023 年 6 月 30 日の間に川崎医科大学附属病院乳腺甲状腺外科において乳がんの治療を受けられた方を研究対象とします。

2）研究期間

倫理委員会承認日～2027 年 3 月 31 日

3）研究方法

本研究に関する検査は、2010 年 1 月 1 日～2023 年 6 月 30 日の間に当院において手術で取り出された乳腺の組織を用いて行われます。術後の病理診断が終了した後に、保管している検体の残り（残余検体）を使用して、新たに組織標本を作成し、免疫組織染色やウエスタンブロッティング、PCR（ポリメラーゼ連鎖反応）等を追加して、研究を行います。その結果とカルテデータ（がんのタイプや、術後経過など）と比較し、乳がんと亜鉛制御トランスポーターとの関連について調べていきます。

この臨床研究では、患者さんの保管検体が用いられますが、その研究結果が、検討させていただいた患者さん御自身の診断および治療法の選択に、新たに使われることはありません。

4）使用する試料・情報の種類

情報：年齢、病歴、治療歴、病理検体番号、病理検査結果、がんの大きさ、がんの組織型、
がんの進行度、ホルモン受容体の発現、がん細胞の増殖に関わるマーカー、がんの転移の有無、術式、術後経過　等

試料：手術で摘出された乳腺組織で、診断後に保管されている残りの検体（残余検体）

5）　試料・情報の保存

この研究に使用した試料・情報は、研究の中止または論文等の発表から 5 年間、保存させていただきます。電子情報の場合は川崎医科大学病理学内で、パスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。試料は附属病院の病院病理部または中央研究センター分子細胞生物ユニット内の、施錠可能な棚の中に保管します。

6）研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。

また、この研究における個人情報の開示は、あなたが希望される場合にのみ行います。あなたの同意により、ご家族等（父母（親権者）、配偶者、成人の子又は兄弟姉妹等、後見人、保佐人）を交えてお知らせすることもできます。内容についておわかりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。

この研究は氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの試料・情報が研究に使用されることについて、あなたもしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、2025 年 9 月 30 日までの間に、下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者さんに不利益が生じることはありません。

＜問い合わせ・連絡先＞

川崎医科大学　病理学
氏名：塩見　達志
電話：086-462-1111　内線 44635
ファックス：086-462-1199
E-mail：grashio@med.kawasaki-m.ac.jp

３．資金と利益相反

この研究は、学内研究費（大学院指導費、教員研究費）および公的研究費（科研費）を用いて行われる予定です。研究をするために必要な資金をスポンサー（製薬会社等）から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねない状態を利益相反状態といいます。本研究に関する利益相反の有無および内容について、川崎医科大学利益相反委員会に申告し、適正に管理されています。